

新 生

平成二十五年九月 十日印刷
平成二十五年九月 二十日発行

新生第六十五巻 第三号

ほおずきに 童の声の 透きとおり 小富士



東北新生園入所者自治会

新 生

平成二十五年九月 十日印刷
平成二十五年九月 二十日発行

第六十五巻第三号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	24,282㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	244床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男42名 女54名 計96名
職員定員数	153名（平成25年4月1日現在）
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



- 平成25年7月20日(土) -



今年も沢山の方々が来園し、
楽しんで頂きました



横田園長・久保自治会長・元副園長森芳正先生

園
內
日
誌

平成二十五年 四月～六月

四 月

十九日 登米市長・登米市議会議員不在者投票
二十三日 観桜会（抽選会・パークゴルフ大会）

五
月

十日 国立感染症研究所研究センター森室長来園

六 月

五日 山形県慰問
七日 春季バス旅行（山形県・チェリーランド）
十一日 パークゴルフ場整備に係る研修（田尻
桜の植樹祭・睦ヶ池鯉の放流
十四日 らいず予防法による被害者の名誉回復
二十一日 及び追悼の日（霊安堂）
二十五日 第三十回高松宮記念杯近隣親善
ゲートボール大会

平成二十五年四月～六月（敬称略）

【謝寄贈圖書欄】

多磨	高 原	始 良 野	菊 池 野	青 松	愛 生	点 字 愛 生	甲 田 の 裾
東 京 都	群 馬 県	鹿 児 島 県	熊 本 県	香 川 県	岡 山 県	岡 山 県	青 森 県
多 磨 全 生 園	栗 生 楽 泉 園	星 塚 敬 愛 園	菊 池 恵 楓 園	大 島 青 松 園	長 島 愛 生 園	長 島 愛 生 園 盲 人 会	松 丘 保 養 園

平成25年9月10日 印刷
平成25年9月20日 発行

発行 東北新生園楓会(自治会)
編集 楓会文化部
印刷 川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第六十五卷第三号……………目次

表紙…「ほおずき（酸漿）」……………桃生 小富士

インド・ジャルカンドでのハンセン病制圧活動……………

就任のご挨拶……………WHOハンセン病制圧特別大使…笹

お世話になります……………看護師…菅 原 川

栗原市立瀬峰中学校職場体験礼状……………看護師…巻

栗原市立瀬峰中学校職場体験感想文……………瀬峰中二年…菅

三行詩・四行詩「七夕」……………瀬峰中二年…田 原

随筆「内面外面」……………今 桃……………野 生

……………小富士……………小富士

|| 新 生 文 芸 ||

詩……………選……………者……………佐々木

俳句……………選……………者……………山 田

川柳……………選……………者……………石 田

……………選……………者……………隆 子

……………選……………者……………桃 晃

……………選……………者……………雅 道

……………選……………者……………洋 一

……………選……………者……………市 子

……………選……………者……………とみ子

……………選……………者……………きよし

……………選……………者……………園内日誌・謝寄贈図書

インド・ジャルカンドでのハンセン病制圧活動

WHOハンセン病制圧特別大使 笹川陽平

二〇一三年四月四日から八日の日程で、インドの中東部ジャルカンド州を訪問しました。同州には二〇〇三年以来三回目の訪問になります。ハンセン病回復者の代表者たちとともに州政府要人と面談し、回復者の生活上やハンセン病対策の強化などを訴えました。

ジャルカンド州は、インドで最も貧しい州といわれたビハール州から二〇〇〇年に分離し、人口約二七〇〇万人とインドでは中規模

の州です。前回訪問した十年前にはハンセン病登録患者が三万五千人、人口一万人当たりのハンセン病有病率は13.0と非常に高い状況でした。この州は山岳部族も多く生活し、交通も不便な地域が多いため、当時私が発言した葉の「届かない人へ届けよう」はこの州の標語となりました。それから十年を経た現在、困難な諸条件の中でも有病率は0.7人、新患者数は年間三、三一七人と激減しました。この流れをさらに加速していただくための激励と、回復者が集団で暮らすコロニー

住人の年金増額の陳情の二つが、今回の訪問の主な目的でした。

デリー到着翌日の四月五日、飛行機で二時間弱かけて州都ランチに着きました。ランチには二、三件の高級ホテルが建設されてはいましたが、道路には信号が存在せず、相変わらず自動車、トラック、人力車、オートバイ、牛車等々、絶え間なく鳴るクラクションはまるで町の悲鳴のように聞こえます。混沌と喧騒は昔のままで、正にインドに来たとの実感は、少し私を嬉しくさせてくれました。

ただし、現地で活動を進めるには制限の多い期間ではありました。ジャルカンド州では訪問一週間前の三月二八日に、極左勢力であるマオイスト（毛沢東主義者）のリーダー十名が他の反乱グループと衝突して殺害される事件が発生。これに不服とするマオイストは四月四日に警察官四名を銃殺、六日には地方

の鉄道を爆破し、六、七日の二日間にわたるストを呼びかけるなど、州都ランチから郊外への移動は制限されました。このため、地方への視察や政府要人との面談が入りにくい状況となり、訪問のキャンセル自体も考えられました。が、可能な範囲内で活動することになりました。

五日の空港到着後、そのまま車で一時間ほどかけてクンティ県のムル保健センターを訪問しました。ハンセン病患者、回復者の方々八名と、彼らをケアする女性のヘルスワーカーたちが十名ほどいらっしゃいました。なかには十歳の若い女の子や、手足に障害が発生している方もいましたが、ヘルスワーカーの方々が熱心にケアをして下さっている様子でした。二人の小さな子どもをもつ母親の回復者は、「夫からも大切にされ、差別はありません」と話していました。これまで世界中で多くの保健センターを見てきましたが、女



－ ムル保健センターで回復者たちと －

性ヘルスワーカーの働きが重要であることをいつも感じさせられます。

保健センターを後にし、車で一時間ほどかけて市街地に戻り、L・キアング州政府福祉次官、およびK・ヴィディヤサガル保健次官と面談しました。この期間は州首相はじめ大臣は不在のため担当省トップとの面談です。福祉次官は「指定カーストへの福祉が対象で、ハンセン病については直接関係しないが、できることがあればしたい」といった反応でした。病気や障害だけでなく差別による二重の困難を背負うハンセン病回復者ですが、人数が少なく、これまで問題を訴えてこなかったために、政府の福祉政策に組み込まれていない現状を感じました。一方、保健次官からは、ここ十年で患者数が激減しているが、「引き続き優先度を高く対策を進めていきたい」という積極的な発言をいただきました。いずれも、ハンセン病回復者の全国組織

ナシヨナル・フォーラムのナルサツパ会長とジャルカンド州内58のコロナーを束ねる州代表のジャイヌディン氏を連れ、彼らを前面に出して交渉してもらいました。私の役割は、主役である彼らを政府に紹介し、つなぎ合わせることだと認識しています。

両次官との面談後には、ナシヨナル・フォーラムの州組織メンバーたちとの集会に参加しました。州代表のジャイヌディン氏はじめ十三名ほどが参加し、長老の方から親が回復者という三十代前半の若い男性もいました。参加者から、「二〇〇七年から州の活動を開始し、職業訓練や子どもたちの学校中退を減らす活動などをしている」という報告がありました。二〇一二年にはナシヨナル・フォーラム主催の若者ワークショップにも参加し、若者や女性も活動に参加するようになるなど少しずつ発展がみられます。とはいえ、州政府を相手に交渉する力はまだまだな

ので、私からは、隣のビハール州では最近、月200ルピー（約400円）の障害者年金だったのが、ハンセン病年金として1800ルピー（3600円）に増額してもらうことができたという例を紹介し、「皆が一致団結すれば、必ず希望が実現するので、一緒にがんばりましょう」と鼓舞しました。

翌六日は、州のNo.2であるラム・セヴァツク・シャルマ州政府次官との面談が入り、ナルサツパ会長とジャイヌディン州代表とともに、障害者年金が月400ルピー（約800円）と低額のため、その増額を訴えました。昨年六月に会長に就任したばかりのナルサツパ氏からは「デリーとビハールでは障害年金とは別に、ハンセン病回復者向けの特別枠の年金を設置した。障害者の中でも、特にコロナー在住のハンセン病回復者は社会的差別という二重の厳しい状況に置かれ、いわば社会の底辺にある。何らかの社会保障を提供する

必要がある。ジャルカンドには58のコロニーがあるが、長年居住していても土地の権利がなく、何も持っていない」と訴えると、シャルマ次官も「確かにあなた方の言う通りだ。できる限りの協力をする」と納得した様子でした。経験上、一、二回の陳情で州の財政にかかわる年金の増額が実現することは望めませんが、彼ら自身が政府と交渉できるようになることと、私も実現するまで日本から何回でも訪問するという姿勢を見せることで、粘り強く交渉していくことが大切だと考えています。

次に、ナラヤン・ロイ州人権委員会委員長との面談後、インディラ・ガンディ・コロニーを訪問しました。同コロニーは人口五五〇人の比較的大規模なコロニーで、十年前に訪問した折に植樹した木の成長を楽しみにしていました。コロニーの発展と環境改善の中で、バラック小屋から土蔵作りの家に変貌



ー インディラ・ガンディ・コロニーの子どもたちと一緒に ー

し、植樹した木は跡形もなく消えていました。住環境は改善されていたものの、家の隅や軒下のあちこちに重い障害者や老人を乗せて物乞いをするための木製の押し車が置いてあり、住人は相変わらず物乞いをせざるをえない状況であることが伺えました。私からは「ササカワ・インド・ハンセン病財団で少額融資を行っており、働ける人は牛を飼って牛乳を売ったり、機械を購入して織物をして、竹細工のカゴをつくったりと、やりたい仕事があれば協力するのでぜひ挑戦していただきたい」と話しました。また、集まった子供たちに「勉強が好きですか？」と聞くと、一様に皆が「はい！」と元氣よく手を挙げ、「一生懸命勉強して医者になりたい」という女の子もいました。彼女らが夢と希望をもって勉強し、しっかりと働けるようにしていくことが私の使命だということを改めて感じました。

翌七日の午前中は、ササカワ・インド・ハンセン病財団の奨学金を受け、四年制の看護大学で勉強している二人の女子学生ソナリ・マトさんとシカ・マウントさんに会いに、車で一時間ほどかけ彼女らが住む寮を訪ねました。三五〇名が通う女子看護大学で、一年目の今は注射や血圧測定などの実習も行っているとのこと。高等教育は受けられないと思っていたが、普通は受けられない高いコースでこうして学べるようになったことを神様と皆さんにとっても感謝しています。将来、ハンセン病コロニーの人々のために働きたい」と、目を輝かせて語ってくれました。砂絵でできた作品をプレゼントされ、彼女たちの笑顔に接したとき、文豪トルストイの「幸福とは他人の幸福を見ることである」との言葉を思い出しました。

その後、記者会見の後に、ランチ市内のニルマラ・コロニーを訪問しました。このコロニーは、幹線道路の下のだぶ川沿いに位置し、一五〇人が生活していました。住人の報告によると、「以前は川の増水や道路の雨水でバラック小屋は常に被害を受けていたが、近年、川との間にコンクリート製の壁ができ環境が改善された」とはいうものの、ゴミが山積みされたどぶ川からは強い悪臭が放たれ、蠅と蚊が大挙する住環境は劣悪な衛生環境であることには変わりはありません。絶望の中で日々何となく物乞いで生活している人々に話をすることは決して易しい仕事ではありません。いくら優しい言葉で生活改善の可能性を説いたところで、現実しか信用できない彼等の不審に満ちた目が、話をしている私の胸に突き刺さりました。ある女性は、両膝を抱いてうつむき加減に話を聞いていましたが、時々私の話に反応してキツとした鋭い目つきで直視し、「話はどうでもいいのよ。早

くこの現実を改善してよ。そうすれば貴男の話を信用するわ」と言いたげな想いが感じられました。何とか私の生きているうちに彼女の微笑みを見たいものです。

今回のインド訪問では、目に見える成果が得られたわけではありません。それでも、現場に入りその現実を直視しながら、忍耐強く人々を一人一人鼓舞していくことで、少しずつではあっても前進があると信じています。ハンセン病の差別のない世界、彼らが物乞いをせずに尊厳をもって生きられる社会を実現できるまで、まだまだ道のりは遠いですが、これからも回復者たちと共に歩んでまいりたいと思います。



－ 看護学校で学ぶインド・ハンセン病財団の奨学生2人 －



就任のご挨拶

看護師 菅 原 洋 子

みなさんこんにちは。私は今年四月一日から第二メープルケアセンター・治療棟に勤務しています菅原洋子といます。勤務して四か月が過ぎたというのにまだなにもわからないことばかりで、失敗の連続。右往左往して一日が過ぎていきます。普通、『新人』と言ったら誰しもが若い人を想像しますよね。五十歳もとうに過ぎ、定年という言葉が目の前にちらついてきたこの時期になぜに転職？不思議に思う方もいらっしゃるのではないのでしょうか？そこで、私がなぜ新生園で働くことになったか…についてお話ししたいと思います。

私は長いこと障害者や高齢者の施設で働い

てきました。私の看護師としての人生は、医療というよりは福祉の現場での仕事でした。決して楽な仕事だったとは思いませんが、仕事が好きでした。自分なりに充実した日々を過ごしていたと思います。（自己満足かもしれないですが）そんな私でしたが、今年の二月のことです。私はインフルエンザに罹患。病気休暇中のことでした。病気休暇中といってもお金はなくなります。病院の帰りにスーパーのATMでお金を引き落とししていたら、頭がスーっとしてきて私はうずくまりました。そしてそのまま意識がなくなったのです。気がついた時は、周りは大騒ぎ。救急車で搬送されるはめになったのです。結局、『薬で血圧が急下降したためでどこもなんともない』と、病院から帰され一件落着。

しかし、そこから私が新生園に来ることになった経緯なのです。私は、倒れた時、誰にも気づかれない場所であつたら死んでいた

かもしれないと思ったのです。なぜなら、私の父は三年前同じような状況で、誰も居ないところで倒れ、発見が遅く亡くなりました。（死因は窒息死となりました。）『今私が生きているのは生かされたんだ』と思いました。そして、『人生を一度リセットして生きてみよう。自分の可能性の限界まで挑戦してみたい。もっと違う世界を学びたい』と、思ったのです。あまりに突然のことでしたから周囲からの反対もありました。ですが、私にとってはまさしく今流行語の「今でしょ！」だったのです。インターネットで新生園の看護師募集を知り、電話しました。「五十歳過ぎていてもいいですか」そして試験の日程の連絡がありました。急に休みが取れない勤務でしたが、これまた偶然にもその日は勤務の休みの日でした。

インフルエンザの罹患、救急搬送、求人、試験日、どれか一つでもかけていたら、今の

私はなかったと思います。それゆえに新生園とは運命的なものを感じました。

福祉については、ほどほどの知識と経験があると言っても、ハンセン病については本々の知識で、まさに一年生です。

ちよつと旬がすぎ、新しい事を学ぶのに少し時間はかかりますが、少しでもみなさんのお役に立てるように、また、私の看護師としての職務が完全燃焼できるように、皆さんに教わりながら頑張っていきたいと思います。

皆さんに出会えたことを大変うれしく思います。こんな私ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

お世話になります

看護師 巻

友樹美

四月より、第一病棟に配属されました、看護師の巻友樹美と申します。毎日、皆様にお世話になりながら、勤務させて頂いております。

自己紹介をさせて頂きます。私は、栗原市若柳の畑岡に生まれました。三人兄弟の長女で、中学、高校と10km程の道のりを、毎日自転車を通いました。母親が看護師をしており、子供の頃から看護師になりたいと思うようになり、迷わず、看護の道を志しました。

高校を卒業後、古川の看護学校に入学し、働きながら、資格を得、夢を実現する事ができました。十年程古川に住んでおりましたが、

結婚、出産を機に、家族で自分の実家の近くに永住することを決意し、引っ越してきました。こちらに越して来てから、今年で八年目になりました。家族は、夫、小学三年生の長女、二歳の長男の四人家族です。自己紹介をさせて頂きますと、必ず聞かれる事があります。それは苗字についてです。『珍しい名字ですね』と声を掛けられます。主人が遠田郡涌谷の出身で、私達が栗原市に引っ越しをしてから、栗原市では一軒しかない名字です。

私の住む栗原市の若柳畑岡は、伊豆沼があり、白鳥の飛来して来る町として有名です。子供の頃は、冬休みになると全国から送られてくるパンの耳やもみ殻などを地区の子供達で餌を与えに毎日沼まで通う事が日課であり、楽しみでした。小学校からの帰り道、田んぼの中に雁が沢山おり、道端にランドセルを置き、追いかけて行った事もあります。

夏は、蓮の花が咲き、毎年多くの人が見物

頂きながら、毎日を過ごしております。不足していることがあり、皆様にご迷惑をおかけし、助けて頂いております。

今後最初心を忘れず、頑張りたいと思います。ご指導、宜しくお願い致します。

に來られます。今年は残念ながら、先日の大雨により、沼の水が増水し、開花間近の緑色一面に広がった葉が、数日で茶色へと変化し、花を開くことができない状況です。緑が豊かな土地で、夏の楽しみは、ザリガニ釣りや夜は蛍を見に、家族で散歩する事でしたが、今では、ザリガニや蛍を目にする事も少なくなりました。子供の数も減り、通った小学校も今年で閉校となり、四月からは、小学校も統合となり、長女も新しい環境での生活となりました。しかし、二年間だけでしたが、時を経て、同じ小学校に通うことができ、よい思い出となりました。

現在まで、仕事を継続できているのは、周りの皆様の支援があつてこそだと常々考えさせられる事があります。働く場所が違っても、違う形で助けて頂いている事、四月から新生園でお世話になり、気づかされ、学びとなりました。新しい出会いもあり、皆様に教えて





東北新生園様

日曜日が月に日に強くなってまいりました。
先日は、お忙しい中、私達のために時間を割いていただき、
真にありがとうございました。
いただいた資料や文具は大事に使わせていただいております。
新生園に入ることや、入居者さんとお話をするのは初めてでした。
最初は不安や緊張でちゃんとしゃべられるかさえ難しかったです。
ですが、まるで自分の祖父母のように優しく接して、いただけてとても
安心いたしましたし、嬉しくも思いました。うかがった入居者さんの思い出話
や、ここに来るまでの話は私たちも忘れられない話になりました。入居者さんの
ことを“かわいいやう”“怖い”と会うまでは正直思っていた私たちでした。
今では“かわいいやう”とは逆に人として強い心をお持ちになられていて学ぶこと
がたくさんありました。
そして、その入居者さんを支える職員の方々、私たちが見学させていたいただいた薬剤科
と検査科で説明されたこと以外にもたくさんの方々の仕事があるんだと思います。
でも、どの所でも共通していたのは“入居者さんのために…”ということだと思い
ました。チームとして、医療面だけではなく、新生園の中の生活、この東北新
生園を一つの大きなチームで支える所がとても格好よくて、あこがれました。
これから入居者さんを東北新生園を支えていってください。
今回は大変お忙しいときに、本当にお世話になりました。
最後になりましたが、東北新生園のみならず、これからお体を大切に
お過ごしください。

平成25年7月

瀬峰中学校2年

菅原麻衣・三田綾香



瀬峰中学校二年 菅原麻衣

私は、今回東北新生園に初めて入りまし
た。どんな所だろうと考えていた時は、看護
師さん達がいるから病院なんだろうと思っ
ていました。ですが、実際に話を聞いたり、見
たり入所者さんと触れ合っているうちに、こ
こは一つの地区、施設でもあるものだけど、入所者
さんの家としてあるものだという事に気が
つきました。

私たちがお会いした入所者さんたちは、み
なさんとても優しく接してくださり、緊張し
ていて上手く話ができなかったことがうその
ようにリラックスして会話することができま
した。入所者さんの思い出やその当時の世の
中の出来事……。学校の社会科の勉強のよう
で、入所者さんの視点でみたその流れは、私
たちにとって忘れられない大切な話になりま
した。

私は祖父母と一緒に生活しています。家の

ことを祖父母が手伝ってくれても、私は素直
に“ありがとう”と言えないことに、この新
生園に来て改めて気づきました。入所者さん
は、会話の終わりに必ず、“ありがとう”
という言葉をかけてくださいました。何気な
い会話でも、その“ありがとう”という言葉
をもらえると嬉しくて、思わず笑みがこぼれ
ます。たった一言の“ありがとう”でこんな
にも人の心を温めるのが不思議でもあり、私
もそういうふうにならないうちに“ありがとう”
を言える人になりたいと思いました。そして、いつも迷
惑をかけている祖父母にその言葉をかけられ
るようになります。

一日という短い時間の中、大切なことを教
えてくださったみなさん、本当にありがとう
ございました。これからもお体にお気をつけ
てお過ごしください。私もみなさんにまたお
会いできることを心から楽しみにしております。

私は、ハンセン病は、どんな薬でも絶対に治らないものだと思っていました。でも、新生園にいる入所者さん達は完治していて、ハンセン病は治っているということなので、この病気は、治るものなんだと思いました。でも、昔はこの病気にかかるとうまわりの人たちから偏見や迫害を受けたり、その家族までもが外に出られなくなってしまうということもあるというので、可哀想だなと思いました。入所者さんの中には、百歳近くの最高齢の方もいて、こんなに長生きするのはすごいなと思いました。

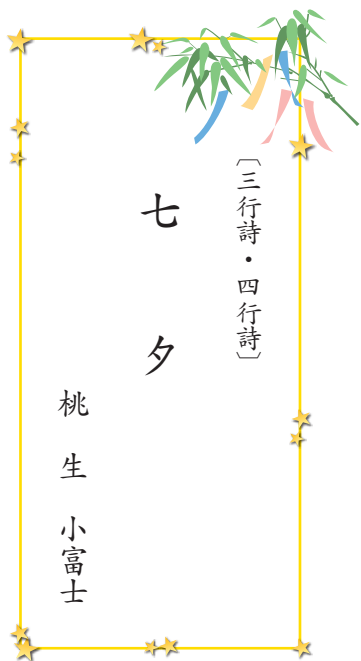
私達は、夫婦の入所者さんの部屋に入って昔のことや、ハンセン病について教えてもらいました。たとえば子供のころにハンセン病にかかってしまい、迫害を受けていたら、学校にも行けなくて外にも出られなくて大変だと思っています。

お昼頃には最高齢の入所者さんのご飯を手伝いました。

入所者さんの中には、自分で食べられない人が多かったけど、自分で食べられない人には、食べやすいようにゼリー状に固めていました。また、うまくスプーンや箸を使えない人には、使いやすいように工夫されたスプーンのようなもので食べていました。

新生園に実際に行ってみて、アパートのような所で一人一人、入所者さんが住んでいることが分かりました。そして、デイサービスセンターのような感じもあり、普通の病院のような感じもあるので、とてもいい所だなと思いました。新生園では地域の人々でも楽しめる花火大会や、少年少女野球大会などの行事もたくさんあるので行きやすい所だなと思いました。

私は大人になったら、福祉活動や、福祉の仕事をしてみたいと思うので、このような職場体験ができて、良かったと思います。



〔三行詩・四行詩〕

七 夕

桃 生 小富士

笹の葉サラサラ

軒端に揺れる

お星さまキラキラ

金銀すなご

今年も七夕祭りがやってくる。毎年、第一メープルケアセンターでは、それぞれ階毎に笹竹に祈りを込めて健康で長生き、また世界の平和を心から祈り、短冊を笹竹に吊るして心ばかりの七夕を祝います。短歌や俳句、川柳はもちろんですが、私は看護師さんや介護

員さんの名前の頭文字を拝借して、三行詩や四行詩を短冊に書いて吊るして頂いて居ります。

三行詩、四行詩の名前を伏せておきますので、次の詩を読んで、誰の名前か当てるのも一興かと存じますので、どうぞ宜しくお願いします。

明るい笑顔が花となり

けしの花のようにしとやかに

みんなにあげる愛の風

尊い生命の灯を守り

皆なの笑顔に出会う時

今夜も励げむ勤めです

短冊に健康第一食事は第二

かつこいい事書きました

笹の葉揺れる星まつり

きつと幸福みんなにくるように

戻れないのは人生よ
共に働く仲間の笑顔
良い日ばかりはないけれど
信頼される介護員

爽やかな風のように
懐かしき言葉今日もまた
笑顔で挨拶お明日

皆んな笑顔で楽しく暮らそう
気持ちはいつも二十歳
今夜は飲もうよ星祭り

赤白黄色
きれいに咲いた夜空の花火
人々が集まれば
露店賑わう夏祭り

随筆

内面外面

今野 きよし

A 娘 B 母

A 母ちゃん家面（内面）って、どういうこと云うの？

A 誰に聞いたその話。
A おばあさん云っていた。
A なんて云ったのや。
A 母ちゃんのこと云っていた。
A 何聞かせられたのや。
A この頃母ちゃん家面良くなったなって云っていた。

A B ほだから何したってや。
A B みんなも早く帰って来るようになったし

リハビリテーションセンター完成

－ 平成25年6月10日 内覧会 －



機能訓練室所属職員の新しい制服

訓練室内

A B 良かったなあって云っていた。
A B みんな夕方帰り早くなったことか。
A B うん、みんなも帰り早くなったし良かったなあって。

A B 何もおれのせいでないべや。
A B なんだか知らないけれどおばあさんが云っていたもの。

A B ほんで聞いてみる。
A B やめておばあさんがっかりするから。
A B なに、おれ聞くから。
A B 母ちゃん、知らないふりして頼むから。
A B それまで云うなら止めた。

A B やっぱり母ちゃんだ。
A B そうか、そんなに母ちゃんのこと心配なのか。

A B なるなる、おばあさんとけんかになったら困るもの。
A B そうだな知らんふりして居るからな。
A B やっぱり母ちゃんだ。
A B そうか、それほど母ちゃんみんなに心配かけたのか。

A そうだよ、母ちゃんが家の中のことなんでもやっていたから。
 B 母ちゃんそんなに力あるのか。
 A ある、母ちゃんが入院していた時、みんなしゅんとなったもの。
 B 誰もその話してくれないからな。
 A そうだったね。
 B 退院した時みんな疲れた顔していた。
 A そうでしょう。
 B おれの事そんなにみんな気にしていたのか。
 A あともう一つあるの。
 B あと一つって何あるのや。
 A 隣の京ちゃんの母ちゃんがね、あんだの母ちゃんこの頃えびす様砂糖舐めたような顔しているって云っていた。
 B その通りだべ。
 A その通りって云われてもわからないもの。えびす様怒った顔しているか見たことあるべ本なんかで。

A うん見たことある。
 B ほんで良かんべその通りだもの。
 A 話くわしく語って聞かせて。
 B 母ちゃんもわからないもの、京ちゃんの母ちゃんに聞いて。
 A なんて聞くの。
 B この間、京ちゃんの母ちゃんから聞いた話どういことって聞いたらえがんべエ。
 A 良く教えてくれるかな。
 B 教えてくれる、わかり易く聞かせてくれるから。
 A うん今度聞いてみる。
 B 忙しい時間くんだと。
 A 母ちゃんいつも良くわかっていても話聞かせてくれないね。
 B そうか今日は良く教えてやるからな。
 A うん、はつきりわかるように教えて。
 B おばあさんの云ったことは、家面悪いってのは家では怒ってばかり居るって云ったこと。

A そう云えばそうだったね。
 B その話ではこれからは気をつけなければと思った。
 A そうか良くわかった、京ちゃんの母ちゃんの云ったこと。
 B あれも同じ事遠まわしに云ったのや、そしてやわらかく云ってくれたのや。
 A それではどちらと同じ事か、それなら良くなる。
 B 今度、築館の笹野屋に行つて生菓子買つて来てみんなで雛祭りのお祝いするかと思っているえがんべ。
 A ああ、うれしい誰よぶの。
 B そうだな、おばあさん、それからお前、京ちゃん親子、家の父ちゃん、兄ちゃんもだな。
 A ビール買うの。
 B 父ちゃんはビールそれから白酒、雛祭りだから買うことにする。
 A 私は飲んで良いの。
 B 見ないふり聞かないふりする、お前に教

A えて貰ったから。
 B へえ、そういうことなの。
 A そうしてみんな仲良くこれから過ごして行きたいと願っている。
 B ああ、目出度い話だね。
 A それはそうさお前と母ちゃんのことだものえがんべ。
 B 楽しみだね。
 A 雛祭りのお祝いにぎやかにやることにする、唄と拍手を元気に頼むからなあ。
 B 京ちゃんの母ちゃん踊り踊るでないか。
 A そうだなあ、前に見たことある。
 B 父ちゃん唄わないか。
 A 唄うかも知れない低い声で。
 B おばあさんの拍手良いね。
 A ああ、待ちきれないな。
 B 母ちゃん良いこと考えるね。
 A それはそうさ一家の大黒柱だもの。
 B 大きく出たね。
 A そうだな、おかしいな。
 B 私も思うね。

詩

佐々木 洋 一選

◇ 入 選 ◇

《露》

今 野 きよし

露と起き
露と消えぬる
我が身かな
難波のことは
夢のまた夢
豊臣秀吉の
世辞の歌がある

朝早く
散歩に出た
沼の淵から
長生会の
花壇のそばを
通ったところ
朝日に照らされ
きらきら輝いている
露を見て
すぎし日の
Tさんのことが
浮かんできた
長生会会長の
Tさんは
自治会の援助
会員の協力を得て
四苦八苦の末に
花壇を作った

新田の

サングチュアリ
センターに赴き
球根を分けて貰い
本格的に
花壇を作った

迫町の
美化運動の
品評会において
三位に入賞した

今は草地となって
朝日に照らされ
光っている
露を見て
豊臣秀吉の
歌を思い出した

【選 評】

《露》

今 野 きよし

Tさんの具体的な行動とその後のありようの対比によって、人生のはかなさがより鮮明に印象付けられている。人間は地球を失くすために努力し、人間は死ぬために努力する。突き詰めれば、在ること自体がむなし。盛者必衰もまた世の常。

短歌

長田雅道選

◇ 入 選 ◇

佐藤 つや子
さくら公園と生まれ変わりし寮舎あと
移り変わりの早きこの頃

【選 評】

人の世の移り変わりの激しさをしめじみと思う作者である。ことにこの頃の変化は身にしみる。建物があつた長い年月のこともなつかしく思うのである。

公園となりて我が立つ
さくら公園と生まれ変わりし寮のあと
引かれつつ行く思うこと多し

今野 きよし

四時に起きサッシを開けて入り込む外
氣にふれて深く息吸う
どんよりと雲垂れこめて梅雨入りの兆
しの見えて心が重い
火葬場の跡地に立ちし記念碑の土のき
わから苔生え始む
衰えし足を大事に長廊下しばらくぶりの散歩楽しむ
帰省する度に通りし沼の土手たまには
訪ね昔を偲ぶ

今野 きよし

つまらない話に耳をかたむけて聞いて
貫いて心の弾む

【選 評】

作者のよろこびがみごとに表現されている。ちよつとしたことにもよるこびを感じる作者の人間性もうかがえる。

◇ 佳 作 ◇

佐藤 つや子
背もたれに脊髓ほご具置きて座すか
る老後を思いみざりし
わが手もてわが口をもて食事するその
幸を思うこの頃
大ごとをなしたる如く横たわる引き出し
ひとつ整理し終えて
幾たびか建て替えられし寮のあといま

俳句

山田桃晃選

◇ 入 選 ◇

今野 きよし
新しきリハビリセンターリラの花

【選 評】

新しく出来た当所のリハビリセンターは脳出血等や怪我のあとの機能回復訓練の場。さぞや新開発された機器に満足された喜びが、リラの花の紫色の小花の芳花に日毎の楽しみが満ちてくる。

千代田 秀夫
古コート見つからぬまま梅雨に入る

【選 評】

コートとは冬の季語。外套もスプリングコートも雨着を含めて言うが、この場合は古コートを思い出して梅雨寒をしのぐようと探したのだが、見つからない。不満、婦人用の和服特有の上^{うわ}っ張りは懐かしい。

園 永 泊

花あらし我になかった人生論

【選 評】

この世の中で人間の生存・生活・生きて行くには自分の思うようには行かない。言い争うことも論^{あげつち}うことあり、意見・見解を述べ説くも、花吹雪のよう

に美しく論ずるまでもない私。
生きる喜びがある。

◇ 佳 作 ◇

斎藤 照雄

風薫る中におらがの義肢軋む
風薫るここにもあったスキャンダル
風薫るこの道あの道つえ弾む
揚げ雲雀どこにいるんだ声ばかり

園 永 泊

ふる里の混声合唱遠蛙
そよ風や舞台に揺れる百合の花
雷を地獄へ落とす避雷針

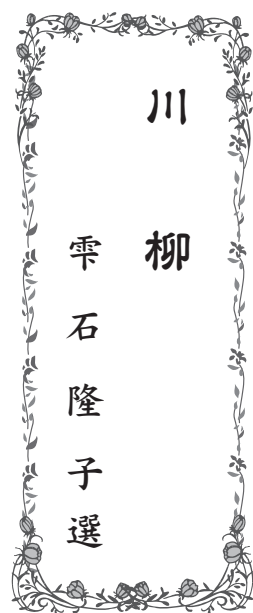
今野 きよし

脂匂う松の切株夏の山

傾きし旧家の屋根の苔の花
型取りの石膏撫でる青葉風

千代田 秀夫

菖蒲湯の香り嫌がる女の子
長病みの俺も菖蒲湯浴びたのに
長く雨歴の上は夏至とあり



◇ 入 選 ◇

《人位》 千代田 秀夫

悟れずにまだ悟れずに酒ダルマ

【選 評】

なかなか払いきれない人生の迷い。あがきがお酒になり「酒ダルマ」は造語かも知れないが、手も足も出ぬ「ダルマ」に事寄せて、苦しさを吐露したのであるか。

《地位》 今井 青風
待ちわびた君の便りと夏が来る

【選 評】 誰の手紙を待っていたのか計り知れないが、ようやく届いた手紙。ふと気がつくと、待っている間に季も移っている。便りを手にした喜びを、梅雨明けの夏の訪れと重ねたところが巧みな一句に。

《天位》 桃 生 小富士
揚花火一発勝負に出る男

【選 評】 花火は音と光の饗宴。花火は盆行事の一環とも言われるが、勝負に出る男の気概を知らしめよう、と花火を打ち上げる。覚悟のほどを公にする行為でもある。うが爽快感が漂う。

◇ 佳 作 ◇

桃 生 小富士
梅雨寒や神経痛が顔を出す
紫陽花の心変わりは許される

今 野 きよし
たらの芽の三度も摘まれ弱り果て
つまらない話も聞ける耳欲しい
開放感味わう空気深く吸う

桜 山 南 仙
おはようとナースの声に梅雨の晴れ
そよ風にすがり揺れてる百合の花
神様の言うまま気まま空模様

千代田 秀 夫
漱石の「こころ」を読みとじつと動かず
真実にマスクをかけて嘘通る

大津波いのちをかけて草つかみ

今 井 青 風
この街が好きです風の匂いです
青春の面影探し同期会
ジッパーの音で始まる旅に出る

斎 藤 照 雄
満開の桜に呼ばれた一升瓶
七転び八起の中に咲いた恋
ふる里に似た一角を飛ぶ螢

秀夫さんのご冥福をお祈り申し上げます。
隆 子

行事



第30回高松宮記念杯近隣親善ゲートボール大会
平成25年6月25日



宮城ハンセン病パネル展見学バス旅行
平成25年7月4日

ご挨拶

看護助手 梶目 市子

この度、今年の四月一日より看護助手として勤務させていただくことになりました梶目市子と申します。

東北新生園で働くことができるとは思っていなかったので内定通知を頂いた時は、大変嬉しく思いました。

年齢は五十路を過ぎていますが、何もできない自分です。自分の知っているところで、そして知らないところで沢山皆様にご迷惑をおかけしていることと思いますが、先輩方や入所している皆様に沢山の事を教えて頂きながら毎日感謝の気持ちでいっぱいです。なんとかコツコツ努力し早く良い仕事が出来れば

と願っております。

東北新生園でお世話になり四ヶ月過ぎましたが、園内の広さ、美しさ、明るさにはいつも驚かされます。春には美しい桜が咲き誇り、七月には盛大に開かれる花火大会。花火大会は家の事情で参加することが出来ず残念でした。

私事ですが、介護の仕事に携わるようになり、その難しさを痛感しております。仕事は何でも大変なのですが、自分自身が他の人の体や心の痛みを察することが鈍く、優しさに欠けるからです。でも前向きにその身になり、気持ちに寄り添えるように少しでもなれるよう頑張っていきたいと思っています。

これからも皆様に教えて頂きながら、努力したいと思しますので、どうぞよろしくお願い致します。

はじめまして

看護助手 渡辺 とみ子

皆様、はじめまして。六月一日付けで、看護助手として勤務しています、渡辺とみ子と申します。

初めて園内を見た時の印象は、きれいに整備され、施設もいろいろと完備されて、とても清潔に感じられました。

私が何年も前に、ヘルパーの資格を取ったきっかけは、友達に誘われたのが始まりで、その時は、将来、親の世話をするようになった時に役立つだろうと思った事と、少しでも勉強していれば、いつか何処かで思い出して出来る事があればいいかなという気持ちで今までいました。(大部分は忘れてしまっ

てますが)それが、こちらに勤務する事になり、何もわからず毎日戸惑いながら、先輩方に、本当にご迷惑を沢山かけながら、親切に教えていただき、現在頑張っている所です。今考えてみると、この年齢で今までの職種と全く違う所で、チャレンジしようと思った自分、自分の性格が、少々内向的な所があるので、職場の皆さんや入所者の皆様と、コミュニケーションをもつと取り、笑顔を忘れず、内面的に向上出来るように頑張っていけたらと思います。

どうぞ、よろしくお願い致します。

母と娘の会話

今野 きよし

A 娘 B 母

A お母さん昨日より三分遅かったね。
B 三分？私昨日も今日も変わらないもの。
A だってね昨日は五時五十九分だったの。
B だって今日は？
A 今日は六時過ぎたの。
B ずいぶん細かいこと云うね。
A だって私お母さん待っていたもの。
B そんなに待っていたのか。
A 毎日待っているもの。
B だったらおばあさんと話したらええのに。
A だっておばあさんよりやっぱりお母さん

B だもの。
A おばあさんも昔はお母さんだったのよ、
B お父さんやおばあちゃんのこと。
A そう云えばそうだね。
B そうでしょう。だったら変わりでないの。
A やっぱりお母さんだね。
B なにそんなに關心しているの。
A お母さんに良いこと聞いた、お母さん
B 待っていて良かった。
A だったらお母さんに手伝って。
B なんてこと手伝うの。
A 御飯の支度するからほうれん草洗って。
B はい洗うのね。
A お母さんも子供の時そうして手伝いさせられたのよ。
B それから何を教えて貰ったの。
A お母さんは刺しゅう教えて貰った。
B お母さんはやらないの。
A もう少し経ったら始める、今はお仕事が

A 忙しいから。
B お母さんのそのうち、いつになるかわからないね。
A お母さんがそうやって後にしたことあったか。
B 私はお母さんのそのうちは、いつになるかわからないと思っている。
A 今度は違うから。
B この間、お母さんと役所に行った時お母さんずいぶん知っている人多いと思った。
A どうしてそれわかるの。
B あの時私のところさっぱりかまわないうで
A いろんな人と話していたもの。
B そうだったかな。
A また忘れたの。
B うん忘れた、いろんなことあったから。
A 今度忘れないでね。
B うん今度には忘れないようにする。
A お母さん、煙突大きいの買つてね。
B 何するの煙突、だなんて。

A あのねサンタクロースのおじさん煙突から入って来るって云うでしょう。
B そう云うな。
A お母さん知らないの。
B 知らないよどこから入って来るか。
A あのねサンタクロースのおじさんね、煙突から入って来るんだって。
B そうしてプレゼント持つて来るのか。
A そう云っていた、去年サンタのおじさんから貰ったプレゼントも。
B あれは学校に来たときだな、学校には太くて大きい煙突あるものな。
A だから家にも煙突買つてね。
B 今年はサンタクロース来ないかも知れない。
A どうして。
B 今年は雪が降らないから来られないって云っていた。
A その話誰に聞いたの。
B この間トナカイの櫓のおじさんに聞いた。

A お母さんっていろいろの人を知っているんだね。
 B お母さんだもの。
 A お母さんってすごいね。
 B そう思うか。
 A それならお年玉貰うようにするかな。
 B 誰に貰うの。
 A 去年は新町のおばあちゃんに貰った。
 B 今年も来るかな。
 A 来ると思う電話しておくもの。
 B 新町のおばあちゃんは正月には鳴子に湯治に行くっておじいちゃんと。
 A その時は去年お母さんに預けておいたお年玉貰うもの。
 B あれか、ちゃんと金庫にしまっておいたから心配しないで大丈夫だから。
 A だって家に金庫ないでしょう。
 B あれは国の金庫にしまっているから心配ないよ。
 A お母さんのちゃんとしてるの当て

B にならないね。
 B いやそんなことないよ、今度の話は違ってから。
 A お母さんっていつも話はぐらかすね。
 B そう思うか。
 A うん思う。
 B ああみんな帰って来た。
 A お父さんも帰って来たかね。
 B あの車の音お父さんの車だ。
 A 何買ってきたかね。
 B お父さんは焼き芋とケーキだな、匂いするもの。
 A お母さんはオーバーだね。
 B そうだなオーバーなお母さんか、この話
 A でおしまいにするか。
 B では、このつづきは後だね。
 B そうだな、そうするか。